

月刊 やちまなこ

2012.11.15 発行

No. 181

12月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



氷の張った湖に雪が積り、キタキツネやエゾリス、ヤチネズミなどの足跡が残されていた。

師走の光輝く湖面にはオオハクチョウが眠り、傍ではアオサギの一群がまるで置物のように並んでいた。季節風が流れ、しばらくすると湖からキュクーンといった音が聞こえ、まるで湿原に長い冬の訪れを告げるような音だった。

コッタロ川と湿原のほとりから

150 12月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“暴風雨止みて真白き師走かな”のコッタロです。一夜にして本格的な冬景色となりました。11月末から列を成して待機していた爆弾低気圧の相次ぐ襲来で、2日と晴天の続かなかったここでは師走に入っても8日迄晩秋の風景をとどめておりました。11月20日に折角記録的な早さで訪れた初雪(去年より13日早い)も、22日、26日に降った積雪合わせて15cm余りも、日中の暖かさと雨に跡形も無く消え失せ、まるで“幻影”。ところが12月9日朝の夢見る様な白銀の世界にはうっとり…。これでようやくエゾヒグマを始め地中のカエルやミズズミ、多くの虫達も安心して長い眠りについていたことでしょう。一見冬眠しているかに思える樹木には来春へ向けての下準備が着々と進められているのがわかります。一方でネズミ軍団だけは夜となく昼となく、湿原や川辺、庭と、いたる所で気ぜわしく動き廻っては野鳥と獣等にその身をささげたまつるのです。

ところでつい先日迄生氣滲刺として「恋の季節」を長引かせていたエゾ鹿の面々がこの暴風雪で一気に姿をくらましてしまいました。写真の三本足の個体は恐らく古株で、以前ハンターに右前足をもぎとられたのでしょうか。それでも若鹿そっちのけのド迫力で疾走し、その巨体からは湯気さえ立ちのぼらせているではありませんか。



又、このところ増えつつあるハイブリッド狐が我家にも出没するようになって、丹頂双家族7羽を大変お騒がせする毎日、彼等から目が離せません。き

くところによるとその昔、開拓の人々による人為的かけ合わせで『黒い狐』なるものが生まれるようになったとか。複数頭いる各々は微妙に毛色が異なり、不思議な面相で、あまり人間を恐れる風もなく、犬のようでも、狸のようでもあるのです。はてはキタキツネととの交雑種なのか判明しないこの「黒狐」のうちの一頭が、であるのがわかったのは、偶然目撃したのキタキツネとの交尾からでした。ほぼ連日2～3頭を見かける為、今後とも撮影のチャンスは増えることでしょう。次回をどうぞお楽しみに！

それではよいおとしを!!



湿原の住人たち その141

釧路湿原では夏鳥のアカエリカイツブリは、日本では主に道北や道東で繁殖するカイツブリの仲間です。写真は11月中旬に塘路湖で羽を休めていた冬羽の地味な姿です。越冬地の本州以南から繁殖のために渡って来た頃は夏羽で、黒い頭に白い顔、首の赤茶色が目立ちます。あるこっと周辺では、5～6月にサルルン展望台から双眼鏡や望遠鏡を使ってサルルン沼を見ると、水草で浮き巣を作るようすや親の背に乗る雛など、沼を舞台にしたドラマが観察出来ます。

アカエリカイツブリ



手作りリースで物づくりの時間を楽しみました！

12月8日(土)午後1時～3時に、レクチャールームにおいて師走恒例のリース作りを行いました。



ツルウメモドキとブドウの枝で編んだ土台の輪に、カラマツやアカエゾマツなどの松ぼっくりやホオズキ、トウガラシ、ヒバ、ひしの実、どんぐりの自然素材と、金・銀・白のスプレーで加工した松ぼっくりやハンノキの実、オニグルミなどを自由に配置し、グルーガンで接着していきました。親子やご夫婦で参加された方もおり、和気あいあいとした雰囲気の中で物づくりの時間を楽しんでいました。どれ一つ同じものがない自然素材の色や形と参加者同士の交流が、いい笑顔を引き出してくれました。

ネムネムの美幌うろうろ日記 Vol.40「大掃除」

美幌博物館でジオラマのメンテナンスがあり、その業者から展示の技術を学ぼうという講座があったので参加しました。

1日目はレプリカ作りで、シリコン枠に樹脂を流し込み、彩色していくのですが、個人的にはキタサンショウウオを目指して彩色したものが、金色の斑点を贅沢に盛り込みすぎて、開運のお守りみたいとつまれながらの作業でした。

二日目はジオラマのメンテナンスの見学。1年間に溜まったほこりを落として、壊れた部分は補修するのだそうです。はく製やレプリカが重なり合うジオラマの掃除なんて、ハタキでもかけるのか、それとも葉っぱ1枚1枚を雑巾で拭くのかと思いきや、はく製に覆いをかけて工事現場のような足場を組み、液体の入った電動エアブラシ(霧吹き)を吹き付けて、レプリカの葉のほこりを落としていました。液体の中身はエタノールと水と

洗剤だそうで、どんな特別な洗剤を使っているのかと誰かが聞くと、業者さんの答えは、いわゆる「マジックオン」だとか・・・。ああ、二度拭きがいらない住宅用洗剤ね、あれは油とほこりが混ざったものも良く落とすものね・・・と妙に納得しました。 辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)

12 がつ 3 にち

ばしょ びほろ



ささっと足場を組んで、黙々と葉っぱにエアブラシ。まさに職人でした。

1月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

連凧を作って揚げよう

[日時] 1/5 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 15名、100円

[場所] 塘路湖EMCレクチャールーム

[持ち物] 描きたい絵柄や図案を考えておいて下さい。

問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

厳冬の湿原ハイク

[日時] 1/20 (日) 10:00~12:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(11/16)ニシキギの実(11/17)キハダとカンボクの実・ノリウツギのドライフラワー(11/30)キジムシロ・フッキソウの芽・オオバボダイジュの実 (12/1)氷中のヒシの実・オニグルミの葉痕・カラコギカエデとヤチダモのタネ

【鳥】(11/16)ツグミ・オオハクチョウ (11/17)オジロワシ・アオサギ・カワアイサの群れ・ユリカモメ (11/19)ウソ (11/26)ヒヨドリ・ミコアイサ・ホオジロガモ・シマエナガ (11/27)オオワシとオジロワシの群れ・オオバン (11/30)コゲラ・キバシリ (12/1)アカゲラ・ヤマゲラ・ミソサザイ (12/14)ノスリ

【その他】(11/16)キタキツネ (12/3)エゾタヌキ (12/8)シラルトロ湖・塘路湖結氷・氷紋(12/12) エゾリス・ヤチネズミ・エゾユキウサギの足跡 (12/13)標茶今季最低気温-16.6 を記録 (12/14)シラルトロ湖に御神渡り現る!?

朝夕、エゾシカの道路横断が目立ってきました。湿原を車で観光する方は、路面が圧雪やブラックアイスバーンになっているところが多いので、安全運転を心がけてください。

コッタロ湿原展望台のWCは凍結防止のため来年4月30日まで閉鎖しています。

湖が結氷しましたが、湖上を散策するのはまだ危険です。湖岸には湧水で凍りきっていない部分もありますので、十分気をつけてください。

日出・日入時間 12/15(6:46, 15:49)・1/1(6:54, 15:58)・1/14(6:51, 16:12)



師走のサルボ展望台と塘路湖

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料